

## 農業の祭典成功に向け、能代市協賛会設立

10月29日から11月4日の会期で開催される第144回秋田県種苗交換会（種苗交換会）の地元運営組織となる能代市協賛会設立総会が5月21日に開かれました。総会議事では、会長に齊藤滋宣能代市長を選任するなどの役員を決議した他、規約や事業計画、予算の各案が原案通り承認されました。会長を務める齊藤能代市長は「新型コロナウイルス対策に万全を期して、各地の農業従事者から足を運んでもらい活力ある農業もつかる農業の一助となる交換会としたい。」とあいさつ。

事務局では今後、ホームページの開設やポスター作成など農業の発展と地域活性化に向けた開催準備を本格化していきます。



能代山本郡の市町やJA、商工・観光・農業団体、医療機関など70人が参加



完成したオリジナルポロシャツ



## 営農と生活の応援団ユニホーム完成しました！

JA職員としての意識・連帯感の高揚と組合員、地域住民に対して営農と生活を応援する組織であることを改めて認知してもらうことを目的に、オリジナルポロシャツを作成し毎週水曜日に、常勤役員や、全事業所の職員が統一して一斉に着用することとしました。

デザインは胸元にJAシンボルマークを刺繍し、左腕には「JA自己改革実践中」の旗を手に持つJAグループキャラクターをプリント、背面にはアルファベットで「白神山を背に営む、農業と生活の応援団」を意とするアルファベットと、JA重点品目に掲げる白神青果物8品目名も印字し知名度向上を図ります。

工藤企画管理部長は「他部門との更なる連帯感や一体感を生み出し、組合員や地域住民の応援団であることを大々的にPRしていきたい。」と意気込みます。



クールビズ期間中このようなスタイルで業務に励みます！

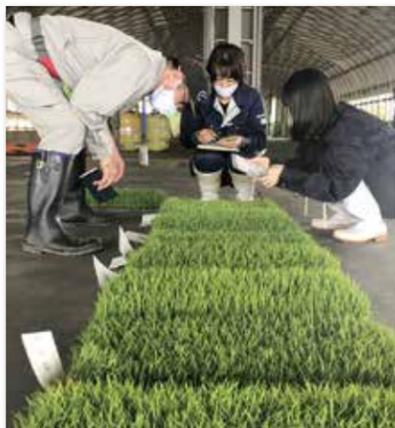
## 健苗コンクールに28点 飯坂さんが最優秀賞

稲作部会（鎌田文尋部会長）は、苗の生育確認と生産者の育苗管理技術向上を目的に、管内3地区合同の健苗コンクールを5月7日に開催されました。コンクールには出品希望者から営農指導員が事前に選出した28点の健苗が出品されました。

審査は、県山本地域振興局の職員が、葉の色や根の張り具合、苗揃えなどを審査し、特に優れた健苗を10点まで絞り込み、その中から発根長や乾物重などを測定し、同月24日に最終的な受賞者5点が決定しました。

最優秀賞は細やかな育苗管理により苗の形質や充実度が特に優れていることなどが評価されて、能代市鶴形地区の飯坂敏範さん（71）が受賞しました。その他の上位入賞者は次のとおり。

▽優秀賞 鎌田文尋、渡部俊市  
▽優良賞 山田浩人、清水一也



一点ごと厳正に審査する県農業振興普及課職員

## 将来を担う子どもたちへ教材本を



浅利美津子藤里町教育長へ贈呈



高橋誠也能代教育長へ贈呈

5月10日にくらしと農業の関わり、また米をはじめとした農畜産物の生産をテーマとした「農業とわたしたちのくらし」の教材本とDVDを能代市教育委員会と藤里町教育委員会を訪問し両教育長に贈呈しました。

教材本は小学校高学年児童を対象に作成され、生活を維持するために必要な「食」とこれを生み出す「農業」、「環境」と「農業」のかわりなどについて写真やイラストを使ってわかりやすく説明されています。

高橋能代市教育長は「今後もJAと協力して、畑作体験学習などの食農教育や販売体験などを通じて、児童らに農業の大切さについて学べる機会を作っていきたい。」と話し教材本を受け取りました。

教材本の提供は2008年から行われており今年で14回目を数えます。齊藤経済部長は「地域の基幹産業である「農業」について学んでもらい、「食」と「農業」の関連性に興味を持ってもらいたい。」と教材本を活用した学習を期待します。

JAあきた白神は今後も食農教育の一環として、学校農園活動や、田植え、収穫体験授業など、将来を担う子どもたちに農業に触れさせる機会作りを積極的に推進していきます。

## 収束を願いながらのワクチン接種

特定施設サ高住「白神憩の郷」の入居者を対象とした新型コロナウイルス感染症の第1回目の集団ワクチン接種が5月24日に行われ、68歳〜98歳の入居者さん31人が施設内でワクチン接種を受けました。

協力医療機関である能代厚生医療センターの太田原康成院長が入居者一人一人に体調具合を問診したあと、「白神憩の郷の看護師が一人ずつ右腕にファイザー製のワクチンを接種しました。」



一人一人に優しい声掛けで問診する太田原院長



気心知れた看護スタッフから安心して接種を受ける入居者さん

接種を受けた89歳の女性入居者さんは「注射は特に痛くもなく、ひとまずは接種を受けることが出来て安堵した。新型コロナウイルス感染症の影響で、盆正月に実家に帰れないことが一番寂しい。接種を受けたことで実家に一時帰宅出来る希望が見えてきた気がする。これからも健康に気を付けながら、新型コロナウイルス感染症の収束を待ち望みたい。」と笑顔を見せてくれました。

金田福祉介護課長は「問題なく接種を終えることができてよかった。施設内の感染症対策では、面会や外出を制限したり、レクリエーションの内容を変更したりと、入居者様には大変寂しく窮屈な思いをさせている。事態が収束するまで、スタッフには万全の予防対策を徹底させて、安心して暮らしてもらいたい。」と話します。

2回目のワクチン接種はおよそ6月中旬を目途に実施する予定です。